

## ブラジルの金融市場動向 Weekly Report

2018年5月21日

【2018年5月12日～2018年5月18日までの推移】

### 【1】先週の回顧

先週のブラジル・レアルは、対米ドルおよび対円で下落しました。米ドルおよび米国債利回りの上昇を受けて、新興国市場全般で高リスク資産に対する需要の減退が続いていることが、こうした動きの背景となりました。また、ブラジル中央銀行が市場予想に反して政策金利を据え置いたことから、2年国債金利は大幅に上昇しました。

15日（現地、以下同様）から16日にかけて行われたCOPOM（金融政策委員会）において、ブラジル中央銀行は政策金利を6.50%で据え置きました。市場予想では0.25%ポイントの利下げが見込まれていましたが、急速な通貨安によって将来的なインフレ率の上昇リスクが高まった点が政策判断においてより重視されたとみられます。また、今後の金融政策運営に関しましても、ブラジル中央銀行は政策金利の据え置きが適当であるとの見方を示しており、これまで続けてきた金融緩和サイクルが実質的に終了したものと当社は判断しています。

先週発表された最新の大統領選の世論調査では、最も金融市場寄りの候補者として投資家から評価されているアルクミン氏の支持率が5%程度に低迷していることが明らかになるなど、大統領選の不透明感が高まっていることも通貨安の要因となりました。

16日に発表された3月の経済活動指数は、前月比および前年比ともにマイナスとなり、市場予想を大きく下回る結果となりました。第1四半期の景気減速を受けて、ブラジル政府は2018年の経済成長率見通しを2.5%以下（従来は3.0%程度）に下方修正する公算が高まりました。

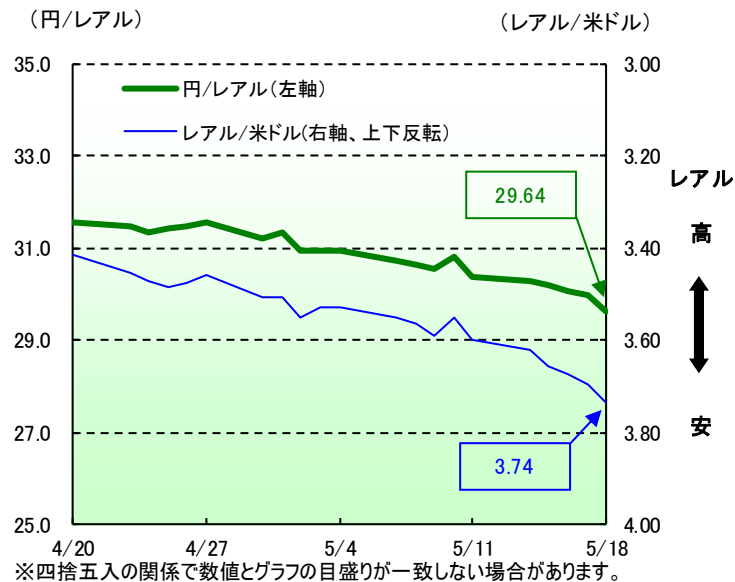
### 【2】今週の見通し

ブラジル中央銀行は今週から通貨スワップによる米ドル売りの為替介入額を従来の3倍程度にする方針を示しており、ブラジル・レアルの下落に歯止めが掛かるかが注目されます。

その他の注目材料としては、22日にCOPOM議事録、23日にインフレ率（IPCA-15）が発表されるほか、大統領選の世論調査も2件発表される予定となっています。

### 【ブラジル・レアル 為替推移】

（2018年4月20日～2018年5月18日）



### 【ブラジル 金利推移】

（2018年4月20日～2018年5月18日）



（出所：ブルームバーグより大和投資信託作成）

### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。
- 当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>